【　2025 年度　　聖隷こども園・保育園　施設関係者評価　】

園名　　**聖隷こども園　こうのとり豊田**

目的：浜松磐田地区の聖隷福祉事業団のこども園・保育園及び関連法人のこども園が、お互いに客観的な視点で施設評価を行うことで、保育の資質向上を目指す。

評価日・評価者

評価日　2025 年　9 月　30 日

評価者　園　名　聖隷こども園　めぐみ
役　職　氏　名　冨永　裕美

評価者　園　名　こうのとり保育園
役　職　氏　名　梶山　美里

【保育・教育理念】

聖隷の保育・教育理念が、日常の保育・教育に反映されているか。

・愛されて、愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。
・一人ひとりの違いに気付き、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する。
・自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。
・在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する。

年度初めに理念の共有化が行われ、乳児はゆるやかな育児担当保育、幼児は主体性を大切にするために時間帯に幅を持たせ、コーナー保育を取り入れている。職員の入れ替わりもあり、保育方法の確認が中心になってきている。実践と振り返りを重ね、子ども達が主体的に生活できるような環境作りに力を入れ、遊びが保障されている。

【人権尊重】

常に子どもの立場に立って、子どもの成長に最善となるような取り組み（関り・配慮）がなされているか。

子ども一人ひとりのやりたい気持ちを尊重し、保育が進められている。職員間の連携を図りつつ、必要に応じて個々に合わせた対応をすることが、子どもに安心感を与え、愛情を感じられる時間となっている。

【情報保護】

個人情報の保護は適切であるか。

規程に基づき、適切に行われている。 保護者や子どものプライバシーの保護、知りえた事柄の秘密保持は徹底されている。

【苦情対応】

意見や苦情に対して、適切な対応ができているか。

苦情解決の体制に基づき、適切に行われている。また、内容に応じて、それぞれの立場（主任・副主任など）を巻き込んで対応している。しかし意見・苦情に対しての周知・対応が不十分だったケースも見られたので、園長・主幹教諭を中心に園全体として情報共有を図り、改善に向け真摯に取り組んでいき保護者との信頼関係を深めていってほしい。

【保健・衛生】

園児の感染症等の情報提供、日常の健康観察や感染症の拡大防止等の取り組みがなされているか。

園長・主任・看護師を中心に、日々の感染対策に取り組んでいる。職員間の情報共有の他、保護者には、掲示板やアプリのお知らせ機能を活用して情報提供をしている。また必要に応じて、行政への報告も適切に行われている。

【安全】

救急・防犯・避難訓練等を通して、職員・園児の安全対応能力の向上を図るための取り組みがなされているか。

園の策定する学校安全計画に則り、計画的に毎月避難訓練を実施し、園児や職員に対し防災対策を行なっている。

【運営】

施設・設備の環境や管理等、運営は適切になされているか。

必要に応じて、関係他部署の応援や指導を仰いでいる。修繕関係は経理に相談しながら優先順位をつけて、できるだけ速やかに対応するようにしている。職員は適正に配置はされている。職員に余裕がある為、今年度は事務時間の確保等にも力を入れている。

【環境美化】

園内外の清掃、物の整理整頓等、清潔で整然とした環境になっているか。また、季節感等が感じられる工夫がなされているか。

玄関周りに野花が飾られ、清掃も行き届いている。フリー職員の環境に対する心配りが刺激となっているが、園庭、園回りの草が伸び追いついていない様子。特に園舎南側は子どもの出入りが出来なくなっていた。近隣住民の迷惑にも繋がる為、整備に心掛けたい。

【保育室】

室内の環境が子どもの発達に合わせて工夫され、玩具等適切に配置されているか。

子どもの遊びに関連する写真や作品などを子どもの目線の高さに提示されていた。子どもの興味関心に合わせ玩具、材料や道具がコーナーに揃えられ、いつでも遊び出せる環境が整っていた。身体を休めるスペースも設けられ、子ども達が主体的に過ごすことができる環境が 4 歳児を中心に整えられていた。

【保育内容】

全体的な計画に基づき、「歳児別保育目標」を意識した保育が展開されているか。

0 歳児

・神さまから預かったいのちとして大切にされる

・大人の愛情に包まれ、安心して過ごす

・意思がしっかり受け止められ、安心して自分らしさを出す

1 歳児

・保育者の祈りや讃美することを通して、神さまに出会う

・歩行と共に行動範囲をひろげ、興味・関心をひろげる

・神さまや周りの人たちに守られ、愛されていることを感じる

・全身を使ってあそび、言葉や身振りで自分の思いを表す

2 歳児
・神さまや周りの人たちに守られ、愛されていることを感じる
・さまざまなことに興味・関心を持ち、保育者や友だちの中であそびを楽しむ。また、生活面の自立ができるようになる。
3 歳児
・保育者や友だちと一緒に讃美歌を歌うことやお祈りをすることを喜ぶ
・あそびを通してイメージを広げ、社会や自然を理解し、友だちとあそぶことの楽しさやルールの大切さを味わう
4 歳児
・保育者や友だちと礼拝を守りながら日々を歩む
・あそびを通して基本的な自然や物事の特性を知り、友だちとのかかわりを通して葛藤を乗り越え、集団生活を豊かにする
5 歳児
・一人ひとりが神さまから違った良いものをいただいていることを認め合って過ごす
・共同的な活動を通して、子どもたちが自分の役割を知り、互いに認め合いながら、主体的に行事やクラスの運営を行う

乳児：ゆるやかな育児担当制保育を行い、一人ひとりの行為やテンポに合わせ、安心して生活が出来るように工夫している。目的を常に再確認しながら、一人ひとりを大切に、丁寧に関わっていきたい。
幼児：主体性を大切にするために時間帯に幅を持たせ、コーナー保育を取り入れている。異年齢交流が始まり、魅力的な環境が工夫され、主体的に楽しむ姿が見られた。食事は食べるタイミングを自分で考えて行なっている。

【全体を通して】

穏やかな雰囲気の中、子ども達が安心して過ごしていました。主任、副主任が園の課題を把握し、職員を巻き込みながら環境面を中心に取り組み、保育実践に繋げていました。それぞれの役割を遂行し、報告・連絡・相談をより意識的に行い、子ども達の姿から振り返り、子ども達にとって何が大切なのかを園全体で確認をしながら、より良い教育・保育の実践に繋がっていくことを期待します。